
とある墮天使の出会い

黒猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある墮天使の出会い

【Nコード】

N2364P

【作者名】

黒猫

【あらすじ】

幼馴染みの川崎唯の事が好きな主人公 伊藤悠

そんな彼の元に「彼女にさせてあげようか？」と忍び寄る墮天使のウイン

果たしてウインの目的は？そして二人の未来は？

- 序章 -

俺の初恋は、小学校四年生くらいだっただろうか。相手は幼馴染みの川崎唯。俺は「唯」って呼んでいた。この呼び方は今も変わらない。

唯を「幼馴染み」から一人の「女」とし意識したのは、高校生になってからかも知れない。

。そんな幼馴染みに恋をする俺の前に傲慢な堕天使が現れたのだ。

1、桜の香りが鼻腔を付く4月上旬。大体の学生は、進級・卒業などのイベントが待っているであろう。そして「伊藤悠」つまり俺も例を漏れずに高校二年生になった。つまり川崎唯を女として見初めて1周年が経ったという事も表している。

終業式も終わり校門前にはたくさんの在校生がたむろっている。俺の周りにいる同級生たちはクリーニングに出たであろうと考えられる制服を身にまとって進級した嬉しさを活力に友人たちと和わ気藹々きあいあいとじゃれあっている。

そして、俺は何をしているかという終業式前に「一緒に帰ろ！」とある女の子に言われたのでその女の子を待っている最中である。その女の子というのは川崎唯。幼馴染である。

しばらく春風に吹かれ幼馴染を待っている途中、俺は子供時代を

回想していた。子供時代を回想すれば決まって唯との思い出しか思い出せない。それだけ俺は唯の事を見ていたんだなと改めて実感する。

そして砂場で唯と戯れている所を思い返している最中にその回想は女の子の声で遮られた。

「悠々 待った〜？」その女の子はミニスカートを揺らしながらこっちに駆けてくる。

「遅いわ 何分待たせるんだよ」彼女は、ごめん。ごめんと謝りながら俺にジューズを手渡してくる。

「んっ？どうしたんだ？」とりあえずジューズを受け取り聞いてみる。

「遅れたお詫び！ よく冷えてるよ〜。冷たいうちに飲んじゃおうよー！！」

何と純粹無垢な笑顔であろうか。もう可愛いとか美人とかの力テゴリーを凌駕している。この魅力は俺だけに分かればいいのである。

「何してて遅れたんだ？」今、唯から貰った確かによく冷えている缶ジューズを空けながら問う。

「えへへっ……。 ちょっと用事があつてね〜。」

この言葉で俺は彼女が何故、遅れたのかが分かった。彼女が用事という時は誰かのお手伝いをしていた時なのだ。彼女は昔から人

の為でも一生懸命になれる子だった。　そういう所も俺が唯を好きになった所為である。

「まあ。いいや　今から行きたい所あるか？　久しぶりに二人でどっか行こうや」座りこんでいた石段から腰をあげて唯に笑顔を向けて聞いてみる。

「109行きたいな。」

「じゃあ　進級祝いに俺が何か奢ってやるよ。」

「えゝ　悠が奢ってくれるのゝ？」　唯は信じていない様子で微笑を浮かべていた。

「俺だって奢る時だってあるの！」

「向きになっちゃってゝ。本当、悠は子供なんだから。」

「ふんっ」　俺は、拗ねたふりをした後に二人で笑いあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2364p/>

とある墮天使の出会い

2010年12月1日10時52分発行